



DIGITAL NURSINGGRAPHICUS

デジタルナースング
グラフィカ

通信

Vol. 63

臨床実習への関門「CBT」と「OSCE」

試験に関する用語で、CBT(Computer-Based Test ; シービーティー)、OSCE(Objective Structured Clinical Examination ; オスキー)という言葉をご存知でしょうか。

どちらも医学部などにおいて、学生が臨床実習の段階に進む前に課される試験を指します。看護師国家試験でも試験のCBT化の検討が進められています。今回はCBTとOSCEについて紹介します。

CBT (Computer-Based Test)

医療の基礎知識や専門領域の知識を問う試験で、コンピュータを用いて選択肢形式で出題。

- 試験は320問で構成。
6ブロックに分けられた問題を1日かけて解く。
- 合格するには正答率が60%以上必要。

CBT

出題形式

ブロック1~4

五肢択一形式
60問×4

ブロック5

多選択肢択一形式
40問

ブロック6

順次解答 4連問五肢択一形式40問
(臨床推論)

出題内容

基礎医学 /
臨床医学 /
公衆衛生
など

OSCE (Objective Structured Clinical Examination)

臨床実習で必要とされる実践的な技能や態度・習慣が評価される試験。多くの大学ではCBTに合格した後に受験することができる仕組みになっています。

- 試験内容は、医療面接や身体診察、基本的な手技などが実施。
- 試験はシミュレータや模擬患者などを用いて、実際の臨床場面に近い形で行われる。
- 2人の評価者の平均点が70%以上で合格。
不合格の場合でも、合格基準に達しなかった項目のみを再受験することができる。

OSCE

評価内容

医療面接(10分) / 頭頸部診察(5分) /
胸部診察(5分) / 腹部診察 /
全身状態とバイタルサイン(5分) /
神経診察(5分) / 救急 /
基本手技(5分)

評価方法

一定時間ごとに部屋を移動し、各部屋での課題について取り組む。評価者(実施大学の教員および他大学の教員)によって6段階で評価される。

いずれの試験も、医学生は**医療に関する知識や臨床能力**を社会に保証するための関門といえます。これら二つを総称して「**共用試験**」と呼びます。共用試験は医師法の改正により公的なものとして位置づけられ、2023年度からは**共用試験に合格しないと臨床実習に進めなくなりました**。

看護師国家試験でも試験の**CBT化の検討が進められています**。

看護専門学校や看護系大学の中には、臨床実習前のOSCEを独自に実施する機関も増えてきています。

近い将来、看護の領域でも、臨床実習を行う前にCBTやOSCEに合格した者のみ臨床実習に進める流れができるようになるかもしれませんね。

お問い合わせ

MC 株式会社 **メディカ出版** 基礎教育営業課
〒532-8588 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F

デジタルナースング・グラフィカに関するお問い合わせはこちら⇒

